夏の実践研修会のご案内

期　　日　令和２年８月22日（土）１３：００～１６：４５

内　　容　各教科等の授業づくり Web セミナー（予定）
①全体会
「各教科等の特質に応じた見方・考え方シンポジウム」
②分科会
「授業の具体で語る『見方・考え方』分科会」
※県内スペシャリストとのコラボ企画

申し込み　参加費は無料。
Web にて受付を行っています。右記の QR コードから本校ホームページにある申込フォームをご覧ください。

申し込み〆切　令和２年８月18日（火）

※ 天候、感染症等により、開催に関する変更がある場合は、本校 HP 等にてお知らせいたします。

後援　熊本県教育委員会
熊本市教育委員会

令和2年度 研究発表会のご案内

2日間 開催！

期　　日　令和３年２月19日（金）
２月20日（土）

全体会講師　京都大学 准教授　石井英真 先生

附属小学校の実践が本になりました！

「粘り強くともに学ぶ子どもを育てる」

― 教材と深く対話する「教科する」授業の理論と実践 ―

- ○ 京都大学の石井英真先生がこれから求められる授業について解説
- ○ 石井先生の全面監修のもと主体的・対話的で深い学びを具現化した実践の数々
- ○ 全教科等・全授業の実践に「見方・考え方」を働かせる子どもの姿を明記

書店等で好評発売中！

附属小学校ホームページのご紹介

リニューアル

新しいコンテンツ
続々登場!!

- **授業研究最前線**
  臨場感あふれる各教科の取り組みを随時更新します。
- **実践・研究ブログ**
  校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。

©2010熊本県くまモン

ホームページ
https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp　熊大附属小　検索

研修会・講師に関するお問い合わせ先

校内研修や研究会の講師として本校教員をお考えの際は，電話か次のアドレスにお問い合わせ下さい。

sinoue@educ.kumamoto-u.ac.jp
（教頭　井上伸円）

熊本大学教育学部附属小学校　研究だより VOL.55
発　行　日　令和２年６月30日
編集・発行　熊本大学教育学部附属小学校　〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12　TEL 096（356）2492　FAX 096（356）2499

令和２年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより

2020.6
VOL.
55

研究主題

粘り強くともに学ぶ子どもの育成（3年次）

ご挨拶

昨年度の研究発表会では，全国各地より 800 名を超える方々にご参加いただき，活発なご議論やご指導・ご助言を賜りました。心から感謝申し上げます。

本校は，昨年度までの２年間，文部科学省より「主体的・対話的で深い学びの推進事業委託校」の委嘱を受け，研究主題「粘り強くともに学ぶ子どもの育成」のもと，各教科等の本質に迫る主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を，子どもの姿を通して提案してきました。本年度からの新学習指導要領の全面実施に向けた取り組みとしても，多くの方々に関心を持っていただきました。本年度も研究主題を継続し，これまでの研究成果を礎に，より一層授業改善を進めてまいります。各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ，他者と協働しながら課題を自ら解決する子どもの姿をご覧に入れます。

本年度の研究発表会も，昨年度と同様，２日間の開催を計画しています。また，「夏の実践研修会」も例年通り予定しています。しかし，新型コロナウイルス感染の状況によっては形を変えての開催になろうかと思います。本校のホームページ等をご確認いただき，ぜひとも多くの方々のご参加と，忌憚のないご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校　校長　井福　裕俊

教科等研究紹介

子どもたちに育んだ資質・能力を見取り，指導に生かすために

研究部長　中尾　聡志

1. 文部科学省研究委託の2年間をふりかえって

本校では昨年度と一昨年度の2年間，文部科学省より「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善の推進」研究校の委託を受け，研究を進めて参りました。1年目の成果として「主体的・対話的で深い学び」を生み出すには「あの姿に自分もなってみたい」「この壁を乗り越えたい」といった切実な思いが生じる学びの文脈を生み出す場を設定することや，その文脈の中で課題解決的に試行錯誤することが必要であることを明らかにしていきました。2年目には「各教科等の特質に応じた見方・考え方」に焦点を当て，それぞれの教科等の本質に出合い，その面白さを心の底から楽しむ学びの姿を生み出すことができました。

当然，研究ですので成果ばかりでなく，課題も見えてきました。それは「学習評価」についてです。せっかく子どもたちが「見方・考え方」を働かせた学びをしていても，その価値を自覚することなく学びを終えてしまう授業があったことや，子どもたちが働かせた「見方・考え方」を次の学びに生かしていくための手立てを明確にできなかったという課題が残りました。そのため，私たちは本年度「学習評価」に焦点を当てて研究を進めることにしたのです。

2.「資質・能力を見取る評価方法」の研究ではなく，「見取りを生かした指導方法の工夫」の研究を

本来ならば本稿の最初に書くべきことですが，このコロナ禍のために，どの学校でも本来の学校開きや学級開きを行うことができなかったのではないでしょうか。私たち熊大附属小も同じです。年度初日の輝く笑顔をした子どもたちとの出会いの瞬間を生み出し，今年1年間きっと生まれるであろう様々なドラマに胸弾ませる，そのような「学級開き」の時間をもつこともできませんでした。新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守るために，避けられない事態ではありましたが，本当に残念な気持ちでいっぱいです。しかし，そんな今だからこそ，学校が再開した後に，めざすべき学びの姿を明確にもっていなければならないと考えています。先行き不透明な今の状況こそ，新学習指導要領が子どもたちに生き抜いてほしいと考える「予測困難な社会」そのものであると考えます。今の状況を私たち教師が，「粘り強くともに」乗り越えていかなければならないのです。そのためには，これまでの研究の成果を，再開後の子どもたちの学びに生かすことができるよう，明確な見通しをもって研究することこそが，今私たちに求められている責務なのだと思います。その見通しとしての「めざすもの」として「学習評価」の充実を提案します。

ただ，「学習評価」の充実をめざす際に気を付けたいことは，評価の手立てばかりに注目するのではないということです。評価することが目的化してしまっては本末転倒です。私たちがめざす「学習評価」の充実は，授業を通して育成すべき資質・能力が，目の前の子どもたちにどれだけ身に付き，どれだけ身に付いていないかを見取り，見取った結果を基にして，全ての子どもに資質・能力を身に付けるにはどのような指導が必要なのかといったような単元設計そのものを充実させることだと考えています。そのことが，この章のタイトルにある「見取りを生かした指導方法の工夫」であり，今年度の1年間をかけて明らかにしていきたいことだと考えています。

3. 終わりに

本校では毎年，夏に「夏季実践研修会」を開いております。昨年度は「授業リフレッシュセミナー」というタイトルを付けて開催いたしました。午前中に授業を4本，午後に各教科等に分かれ，2ユニット制にして参加された先生方が希望される研修会となるように開催しました。それぞれのユニットからご希望のユニットを選択していただく形で実施し，ご参集の先生方から，たくさんの満足の声をいただくことができました。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，8月22日（土）にWebセミナー形式での開催を予定しています。その中で今年めざす「学習評価」の充実について，実践を基にした研究内容となるようご説明させていただきたいと考えております。先生方のたくさんのご参加をお待ちしております。

国語科

全ての子どもが「深い学び」を生み出すために

溝上　剛道

田邊　友弥

６年「海の命」では，主人公の視点で物語の全体像を語る言語活動『太一のモノローグ』を設定しました。よりよいモノローグに向けて問いの解決に取り組む中で，「村一番」と「一人前」の違いに立ち止まった子どもがいました。「ここと繋げると」「でもこの立場だと」等，対話を通して考えの違いがどこから生じたかを検討する中で，関連付ける叙述や視点を再考し，新たな意味を創り出していきました。

このような学びには，自ら立てた問いを解決しながら意味の創造へ向かうプロセスが必要です。そのために，学びがいのある言語活動と粘り強さを見取る評価，見取りを基に対話を促し，子ども自ら解決策を見いだす手立てを提案します。

社会科

よりよい社会を考える子どもを育む

定松　良彰

村上　春樹

山田　壽彦

４年「私たちの熊本『ごみ』～子どもエコクラブ～」において，一人一人が「社会との関わり方を選択・判断する活動」を組み込んだ実践を行いました。子どもたちは，問題解決への見通しをもち，ごみ処理の仕組みやそれに関わる機関や人々の働きについて考察しました。そして，これまでの自分の学びと「今の社会」とを関連付けながら，今自分たちにできることを選択・判断することができました。

本校社会科では，社会の在り方や自己の働きかけを粘り強く考える子どもの育成を目指しています。今年度は，事象を自分事として捉えるための単元構成の工夫や資質・能力を見取るための評価を中心に研究を進め，提案します。

算数科

自ら「数学的」に探究する子どもを求めて

大林　将呉

篠田　啓子

枝川　晃久

１年「長さ」において，クレヨンで描いた線の長さを比べている時のことです。違う方向に向かって描かれた２つの線を指し「これは比べられない」と，直接比較ができないことに気付いた子どもがいました。最初は見た目で比べていた子どもたちが，線上に手を置いて比べたりリボンを使って比べたりするなど試行錯誤しながら，対話を通して，間接比較という新たな比較方法を見いだしていきました。

本校算数科では，問いや思いを生み出す問題場面と単元構成，数学的な見方・考え方を働かせて課題解決していくための手立てを通し，学ぶことへの価値を見いだし，見通しをもって粘り強く探究する子どもの姿を目指します。

理科

子どもが自分事として問題解決に没入する姿を目指して

松山　明道

牛嶋　克宏

５年「流れる水のはたらき」において，白川の氾濫を防ぐ防災計画をつくりました。洪水を防ぐ対策を考える時，白川の流域全体にも目を向けて「中流だけでなく上流の雨の量によっても，熊本市の侵食のはたらきに違いが出てくる」といった時間的・空間的な見方を働かせ，考えを深める姿が見られました。子どもたちは，土木設計の技術者の文脈を辿りながら，問題をみんなで解決していきました。

本校理科では，子どもたちに科学者や技術者の文脈を追体験させる単元構成を行い，観察，実験を自ら計画，実施していきます。本年度は，子ども自らが自己の問題解決の過程を振り返り，さらに粘り強く追究し続ける授業を提案します。

生活科

体験と表現を往還し，自ら追究に向かう表現活動とは

坂口　静磨

昨年度の「熊本市電の秘密」の学習では，体験活動である車両工場探検での気付きを生かし，工場の様子を再現するジオラマ制作という表現活動に取り組みました。この体験と表現を往還する学びの中で，熊本市電を乗り物としか見ていなかった子どもたちが，車両工場で働く人々の思いにも気付き，自分との関わりで捉え直す姿が見られました。

本校生活科では，体験活動で気付いたことを基に，思考しながら表現できる表現活動を開発し，その表現活動における子どもの思考の過程を見取っていきます。身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，気付きの質が高まっていくことで，豊かな生活を創り出す子どもの姿を目指します。

音楽科

自ら音楽表現の追求へ向かう子どもを目指して

中島　千晴

上原　正士

音楽会に向けて合唱曲「夢を語ろう」に取り組んだ５年生の子どもたち。最初の合唱の録音を聞いた子どもたちは「棒読みで，表情がないなぁ」と物足りなさを感じました。質の高い歌にしたい，そのために歌詞に合った表現を工夫したいと考えていた子どもたちは，歌詞に複数登場する「花」に着目し，フレーズや強弱を工夫していきました。

本校音楽科が目指しているのは，このように子どもたち自らが目指す姿と照らしながら表現に課題を見いだし，歌詞や楽譜，生活経験等の根拠や思いをもとに音楽表現を追求する授業づくりです。本年度は，子どもたちが表現への思いを更新しながら試行錯誤していくための学習の枠組みや，振り返りの仕方についての手立てを提案していきます。

図画工作科

自分なりの意味や価値をつくりだしていく子どもへ！

毎床栄一郎

昨年度，１年生での色水を題材に実践をしました。食紅を用いた青・赤・黄の色水を混ぜ合わせたり，つくりだした色水を上や下，横から見ることができる場に並べたり，積み重ねたりする活動に夢中になって取り組む子どもの姿がありました。その中で，つくりだした色水に「桜色」と名前をつけたり，つくりだした造形物を，多様な方向から見ることで，そのよさや美しさを見いだすことができました。

本年度も，子どもたちが夢中になって取り組む題材と学習環境（材料・場・用具等）の開発を継続するとともに，評価を授業づくりに生かしていく研究を進め，子どもたちが新たな意味や価値をつくりだしていく授業を提案します。

家庭科

よりよい生活を創り出す子どもを目指して

大廣　紘子

昨年度，６年生の住生活の学習では，自分たちの掃除の姿を映像で見る場を設定してイメージと実態の差に出あわせ，よりよい掃除の在り方を探る課題を設定しました。その解決に向け，模型等を用いたり，比較実験の結果を基に検討したりする中で，手順，道具の使い方，役割などに着目し，効果的で効率的な掃除方法を実感していきました。

本校家庭科では「こうなりたい」という思いから課題を設定し，解決の見通しをもつために，既得の知識や技能を生かして解決方法を検討します。そして，実習時の考察のずれから生じる対話を通して，生活に係る見方・考え方を働かせてよりよい方法を見いだす授業を提案します。

体育科

体育における見方・考え方を働かせている姿とは

磨田愼太郎

是住　直人

西　沙織

４年トリプルタグラグビー（ゴール型ゲーム）の学習において，パスを出してもすぐマークされてしまうという子どもの悩みについて全体で考えているときのことです。困っている状況を再現することによって，子どもたちはボールを保持していない仲間のポジションや動き出しのタイミングといったこれまでの体育の学習で獲得してきた見方を働かせる姿が見られました。

本年度，体育科では，領域や運動の特性に応じて働かせている見方・考え方を明らかにするとともに，運動の多様な楽しみ方を見つけていく姿を見取り，指導に生かしていくための評価の在り方について研究を進めてまいります。

特別の教科・道徳

見方・考え方を働かせ，自己の生き方を深める道徳授業

山平　恵太

人の心の美しさは，日常に溢れてはいるもののはっきりしたものではありません。そこで美しい心とは何かを多面的･多角的に追求するため「親切，思いやり」「感謝」「感動，畏敬の念」で単元型学習を設定し，単元のゴールに向けた学びの中で道徳的価値の理解を深めていきました。

本年度道徳科では，見方・考え方を働かせて多面的・多角的に思考し，自己の生き方を深めることができる授業の在り方を研究します。子どもの学びを授業に生かし，道徳的諸価値の理解と，人間理解や，他者理解がどのように相互作用しているか表現活動を通して見取り，自己の生き方を深めることができる道徳授業を提案します。

外国語活動・外国語

コミュニケーションのおもしろさと大切さを実感する授業を目指して

髙田　実里

「留学生と『熊本 What's this? クイズ』をしたとき，少しのヒントで分かった人と分からなかった人がいたよ。人によって知っていることが違うってことか。」体験から感じたことに立ち止まり，どの留学生にも熊本のことをよりよく伝えようする子どもの姿がありました。明確な目的のある言語活動を通して，相手によって知っている情報が違うことを踏まえ，表現を工夫する大切さに気付いていきました。

本校外国語では，子どもが心から伝え合いたいと感じる言語活動を設定し，外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，相手や目的に応じて表現を工夫しようとする授業と学習評価の在り方について研究を進めます。

保健・健康教育

自他の行動のよさを健康づくりに生かす子どもを目指して

角居　禎子

普段元気に過ごせている子どもたちに，正しい行動を示し，できていない部分の改善を促すだけでは，意欲的に自らの健康と向き合わせることはできません。そこで，これまで何気なく行ってきた自分の行動のよさに気付かせることで，健康づくりの意欲を高めることができると考えます。

本校の保健・健康教育では，自分や友達の行動のよさに積極的に目を向けるための手立てを工夫することで，自分の行動と健康とを関連付けて考えられるようにし，行動の継続や改善への意識づけを図って実践の意欲を高めていきます。意識や行動をよりよく変容させ，生涯にわたる心身の健康づくりにつなげる保健・健康教育の在り方を提案します。

栄養・食育

よりよい食生活に向けて学びを実践できる子どもを目指して

松尾　夕貴

「牛乳以外でカルシウムをとるには，どうしたらいいの？」これは，1日に必要なカルシウムをとるためには，給食の牛乳を３本以上飲まなければならないことに驚いた子どもの言葉です。これをきっかけに自分の食生活をカルシウムという視点で見つめ，1日の必要量を満たすための工夫を既存の知識をフル稼動させながら、考え始めました。

このように，日常の食生活に立ち止まって考える場面を設定することで，体験活動や他者との交流を通して，自分の食生活をさまざまな視点から見つめ直していきます。そして，給食の時間や各教科等の学びを日常生活に関連付け，それらをもとに課題の解決を図り，よりよい食生活を築こうとする思いを実践につなぐことができる子どもの姿を目指します。